

# リトアニア政治・経済月間情勢(4月)

## 概況

- エネルギー戦略見直しの作業部会は、ビサギナス原発計画は、追加的条件付きで継続可能と提言。今後地域パートナー及び戦略的投資家との交渉が注目される。
- プトケビチュウス首相は、ロシア、ベラルーシ首相と各々会談。経済、エネルギーを中心に隣国との関係改善が図られた。
- 松山外務副大臣が来訪し、外務副大臣、経済大臣やエネルギー大臣と会談。2国間関係強化とエネルギー分野での協力等を協議。

## 内政

- 【3日】祖国同盟は影の内閣を発表し、影の首相にクビリウス党首が就任。
- 【12日】パウラウスカス労働党議員は、二重国籍に関する国民投票を来年の大統領選挙と同時に実施する決議案を国会に提出し、16日の第1回読会で可決された。
- 【16日】グリボウスカイト大統領はパバルキス教育科学大臣と会談し、同大臣が発出したリトアニア語統一試験の簡素化省令に関し、試験基準は同一であるべきと批判。
- 【20日】世論調査で、グリボウスカイト大統領及びプトケビチュウス首相の支持率が引き続き最も高く、ウスパスキフ労働党党首の支持率は同党の不正経理裁判の影響で低下。
- 【22～23日】野党祖国同盟党首選が行われ、28～29日の決選投票を経てクビリウス党首が再任。
- 【24日】労働党と労働者党が正式に合併し、労働・労働者党と命名。ガプシス労働党副党首が新党首に指名され、ウスパスキフ労働党党首は副党首となることが決定。
- 【28日】国会前でリトアニア語支持者が非リトアニア語氏名標記に反対、抗議する集会を開催し、約500人が参加。
- 【29日】パクサス秩序と正義党党首は、労働党との合併交渉が遅れていることに不満を表明。

## 外交

- 【3日】ギェル・トルコ大統領が公式訪問し、グリボウスカイト大統領と会談。リンケビチュウス外相は同行したバグリスEU加盟交渉大臣と会談。バルト海・黒海地域を繋ぐバイキング列車プロジェクトへのトルコの参加覚書が署名された他、約100人の経済人が同行し、ビジネスフォーラムが開催。
- 【3日】当地紙は、朝鮮中央通信がグリボウスカイト大統領とパク北朝鮮大使の信任状奉呈会談に関し事実と異なる報道を行い、政治的宣伝に利用したと報道。
- 【3日】外務省は、リトアニアが共同提案国として積極的な働きかけを行った武器貿易条約案が国連総会で採択されたと発表。
- 【4日】ヘケロップ・デンマーク国防相が来訪し、シャウレー空軍基地でオレカス国防相と会談。
- 【5日】プトケビチュウス首相はサンクトペテルブルクでのバルト海沿岸諸国首相会合へ出席。メドベージェフ・ロシア首相及びミレル・ガスプロム社長とも会談し、首相会談ではEUエネルギー第3パッケージ、カリニングラード住民の無査証渡航範囲について協議した他、経済貿易関連実務者会合の実施等善意の協力関係に合意できたと評価。
- 【7日】アフガニスタンのゴール県チャグチャランで、リトアニアPRT装甲車に対戦車ミサイルが発車され、兵士2名が負傷。国防省は今回の事件が権限委譲に影響することはないと発表。15日にはチャグチャランで、当国軍諮問チーム装甲車の下で未確認爆発物が爆発する事件が発生したが、負傷者は出ず。
- 【7日】当地紙は、ダライ・ラマが9月12～13日にリトアニアを訪問予定と在英ダライ・ラマ事務所代表が確認したと報道。

【8日】サッチャー英元首相の死去に際し、グリボウスカイト大統領、プトケビチュウス首相他が弔意メッセージを発売。17日、グリボウスカイト大統領は同英元首相の葬儀へ出席。

【8日】グリボウスカイト大統領は、ヤヌコーヴィチ・ウクライナ大統領のルツェンコ元内相等への恩赦について、EUは肯定的に評価するであろうが連合協定への署名に十分かは分からないとコメント。

【8日】グリボウスカイト大統領はノルウェーを訪問し、ハラルド国王及びストルテンベルグ首相と会談。2国間関係、北欧バルト協力(NB8)、エネルギー等について協議した。グリアOECD事務総長とも会談し、リトアニアのOECD加盟への支援を要請。

【11～12日】シエモニャク・ポーランド国防相が来訪し、オレカス国防相と会談。リトアニア・ポーランド・ウクライナ旅団に関する協議の進展を歓迎し、両国特殊任務部隊間の協力覚書が署名された。

【12日】ソウンダー・デンマーク外相が来訪し、グリボウスカイト大統領及びリンケビチュウス外相と会談。2国間関係、リトアニアのEU議長国等について協議。

【13～15日】オレカス国防相はアフガニスタンのカンダハール、チャグチャラン及びカブールを訪問。同大臣にはパウラウスカス国会安全保障防衛委員長他の国会議員が同行した。

【16日】ダッチ・セルビア首相が来訪し、グリボウスカイト大統領及びプトケビチュウス首相と会談。パラカウスカス内務大臣との間で犯罪対策協力合意に署名し、また同行したムルキッチ外相とリンケビチュウス外相との間でEU統合分野での協力覚書が署名された。

【17日】外務省は当地ベラルーシ大使館に対し、ベラルーシ空軍機の領空侵犯事件に対する抗議の口上書を手交。オレカス国防相は深刻な侵犯ではなかったとコメント。

【17～18日】リンケビチュウス外相はダブリンでのEU貿易相非公式会合へ出席。

【18日】プトケビチュウス首相はスウェーデンを訪問し、ラインフェルト・スウェーデン首相及び同国の経済界代表と会談。

【18～19日】オハニヤン・アルメニア国防相が来訪し、オレカス国防相と会談。両国の防衛協力、アルメニアのNATO及びEU加盟等につき協議。

【19日】カウナスでリトアニアのチャグチャランPRT最終部隊(第17次PRT)壮行式が開催され、オレカス国防相、ポチウス軍司令官、白石大使が出席。日本をはじめとする協力国への謝辞が述べられた。

【21～24日】ゲドビラス国会議長はキプロスでのEU国会議長会合へ出席。

【22日】リンケビチュウス外相はルクセンブルクでのEU外相会合へ出席し、チタク・コソボ欧州統合担当相と会談し、セルビアとコソボの関係正常化のための合意達成を歓迎。

【22～23日】オレカス国防相はルクセンブルクでのEU国防大臣会合に出席し、12月の防衛安全保障会合に関する欧州理事会でエネルギー効率及び欧州安全保障戦略の見直しが議題とされることを期待すると発言。

【23日】リンケビチュウス外相はNATO外相会合へ出席。

【23日】国会は2014～15年の海外派兵要員枠の決議を採択し、アフガンNATOミッション200人、EUやNATOの海賊対策への要員派遣を認可した。

【24日】プトケビチュウス首相はブリュッセルを訪問し、ファン＝ロンパイ欧州理事会議長、バローゾ欧州委員長、欧州委員との会合を実施。同訪問には保健相、内務相、文化相、農業相、外相、国防相、社会保障労働相、教育科学相、運輸通信相、財務相が同行した。

【25日】リンケビチュウス外相はポーランド、蘭、デンマークの外相ないし欧州担当相と共にウクライナを訪問し、ヤヌコーヴィチ大統領、コジャーラ外相と会談し、反体制派メンバー及び市民社会代表と会見。

【29日】リンケビチュウス外相はウランバートルでの第7回民主主義共同体閣僚級会合へ出席し、女性と民主主義セッションでモデレーターを務め、北朝鮮反体制活動家とのハイレベル討論会を実施した。

## 経 済

【2日】統計局及び中央銀行は、2012年の外国直接投資統計を発表。リトアニアへの投資フローは前年比約37%減少したが、年末の投資残高は8.1%増。投資国はスウェーデン、キプロス、蘭、ポーランドの順で、ロシア、ラトビアからの投資減少が大きかった。分野別では金融・保険、不動産への投資が大きく、累積投資額ではスウェーデンが最大。

【5日】財務省は経済成長率予測を2013年3%、2014年3.4%と発表し、16日にIMFはそれぞれ3%、3.3%との予測を発表。インフレ率については、財務省は2013年2.4%、2014年2.8%の予測に対し、IMFは2.1%、2.5%との見通し。22日、世界銀行は2013年の当国の経済成長率を2.8%へ上方修正。

【18日】ミヤスニコーヴィチ・ベラルーシ首相はクライペダでのリトアニア・ベラルーシ経済フォーラムへ出席し、プトケビチュウス首相と会談。ミヤスニコーヴィチ首相はベラルーシは必ず原発を建設すると述べ、更に経済面での両国の協力関係を強化する準備があるとコメント。

【30日】統計局は、第1四半期のGDP成長率を対前年比3.4%で製造業とサービス業が寄与したと発表。

## エネルギー(含むビサギナス原発プロジェクト)

【4日】ペサイテ経済相は当地ラジオ・インタビューで、ビサギナス原発建設は不必要と発言。プトケビチュウス首相は、これは個人的な意見に過ぎないと否定。

【5日】プトケビチュウス首相はミレル・ガスプロム社長とサンクトペテルブルクで会談し、リトアニアのガス価格の引き下げを要請した。ミレル社長はカリニングラードへのガス供給問題を提起し、今後双方の専門家同士の協議が開催されることとなったと発言。

【12日】ガスプロムとエネルギー省との会合で、ガスプロム側は長期契約締結等を条件としてガス価格の20%引き下げを提案したとの報道に対し、プトケビチュウス首相はそのような提案は受けていない、ガスプロム社との交渉はネベロビッチ・エネルギー大臣が当たるが、欧州委員会からの参加も求めると発言。

【15日】エスポー条約実施委員会は、ベラルーシに建設中の新原発が同条約違反との結論を発表し、ベラルーシに詳細情報の開示を要請。

【22日】エネルギー戦略見直しの作業部会はその結論を政府へ提出し、地域パートナーとの法的合意、国際金融機関からの有利な融資条件及び国民への情報開示の3つが満たされれば、ビサギナス原発建設継続は可能と提案。プトケビチュウス首相は、リトアニアは原子力エネルギー開発を続けるが、電力価格の引下げが必要と発言。23日、首相府は同原発が商業的指標を改善し、作業部会の示す追加的条件を実施すれば建設計画を継続すると発表。

【22日】政府はシェールガス採掘調査に関する結論の延期を決定。

【23日】ブリュッセルで、リンケビチュウス外相はケリー米国務長官との間で、核物質密輸対策に関する協力合意に署名。

## 日本との関係

【3日】塩尻EU代大使は国会欧州クラブにて「日・EU関係」と題する講演を実施。ガプシス国会副議長、アウシュトレビチュウス国会副議長、ユオトカ国会外交委員長他の国会議員、当地外交団、一般市民等約50名が出席した。

【10日及び12日】当館はビリニユス芸術アカデミーと共催で現代日本の掛け軸レクチャー・ワークショップを開催。学生、一般市民等約95名が参加し、当地紙でも大きく報じられた。

【12日】ビリニュス市による日本庭園プロジェクトの設計発表会が実施され、ズオカス市長が中根庭園研究所長の設計を説明し、白石大使も歓迎挨拶を行った。

【13日】ビリニュス市で新極真会による世界空手選手権が開催され、日本から緑代表等多くの関係者、選手が来訪。開会式でグリボウスカイト大統領のメッセージが代読され、白石大使も挨拶。リトアニアは過去最多のメダルを獲得。

【18日】ビリニュス大学アジア研究センター20周年記念国際会議が開催され、白石大使は開会式に出席し、記念スピーチを実施。

【23日】ミコラス・ロメリオ大学アジアセンターが設置され、ビリニュス大学、ビタウタス・マグヌス大学に次ぐ第3のアジア研究拠点となった。オープニング式典には白石大使も出席。

【26日】在京リトアニア大使館において、クレイティンガ市のマズーチャイ日本庭園と神奈川県横須賀市の長井海の手公園ソレイユの丘は、姉妹庭園の覚書を締結。

【26日及び27日】当館はビリニュス及びマリヤンポレで狂言師茂山宗彦氏による狂言公演を実施。両会場とも多くの観客が集まり盛況を博した。

【29日】ウランバートルでの第7回民主主義共同体閣僚級会合の際に鈴木外務副大臣はリンケビチュウス外相と会談し、2国間関係強化等について意見交換を行った。

【30日】松山外務副大臣が来訪し、ゲルマナス外務副大臣、ベサイテ経済大臣、ネペロビッチ・エネルギー大臣と会談。2国間関係、国際場裏での協力、経済関係の強化やエネルギー分野での協力について協議した。またクビリウス前首相他の与野党議員と懇談し、2国間関係、東アジア・欧州情勢等について意見交換を行った。更に、当地紙とのインタビューを行い、その概要は大きく取り上げられた。

この資料は、リトアニアの政治・経済情勢を中心に各種報道、発表をとりまとめたものですので、記載事項の信憑性まで確認したものではありません。

記載事項は在リトアニア日本大使館の見解を示すものではなく、特定の団体・個人の利益を代表するものではありません。